

1	「デジダブルネイティブ」のこどもたちが「アナログ世代」の私がどのようにSNS・ネットの付き合い方を教えたり、危険から守ることが出来るか不安だったが、一番の防御策がこどもとの関係性だと知り、少し安心できた。もちろん、リスクを学ぶ事や信頼という放任をしない。頭ごなしに禁止せずにルールと一緒に考えるなどは必要だと思う。だが、何より大事なことは、こどもの変化に気付く、困ったことを相談してもらえる支援員でなければならないのだと思う。この研修を通し改めて、クラブのあり方、支援員としての姿勢を見直す機会としたい。
2	インターネットは身近な物でなくてはならない物。身近な物だからこそ、インターネットの安心安全な使い方を講義で聞くことができて大変ためになりました。こどものインターネット、スマホ環境における危険から守るため。は大変参考になりました。子どもの小さな変化に気づいて、保護者へ適切な橋渡しができるように、支援員で話し合いたいと思います。 放課後児童支援員だからできる見守り。を心がけたいです。
3	ネット利用の増加に伴い、デジタルネイティブである子どもたちにとっての現状を理解することは、放課後児童支援員としての私たちににとって、とても大切なことだと改めて感じました。特に現場において意識したいと思ったのは、監視役ではなく、共に考え、伴走するアプローチをするという事です。大人の威厳で押さえ込まず、子どもに教えてもらえるように『聴く姿勢』を意識する。そのためには普段から寄り添う気持ちを忘れずに、同じ目線になって向き合っていくことが大切だと思いました。

4	子どもたちがインターネットやスマホを利用するにあたって、その身近な環境とリスクを改めて学ばせていただきました。 個人情報の漏洩やネット詐欺、著作権侵害など気をつけなければならないと言いつつ、気軽に出来てしまうSNS等。子どもたちを危険から守るためにも、学童支援員としても何気ない会話から、そういった困り事がないか、相談を受けれる存在になれたらと思いました。
5	今回の研修で、ネットやAIの利用や活用について、又リテラシーについて学び、理解を深めることができた。私の学童クラブでは、InstagramやYouTubeの運営を行っており、日々の子どもたちの様子をあげていますが、その際、名前や場所が特定されるような内容やプライバシーに関わる点などに注意し投稿していきたい。また、子どもたちにも資料を参考にし、ネットについて伝えていけたらと思う。
6	インターネットには、音声は履歴が残らないことや、依存からくる金銭トラブル、文字だけのやり取りだと誤解を生むことがあるなど、様々な落とし穴があることを学びました。 子ども達の違和感を見逃さないこと、何か起きた時に話せる関係性を築くことを心がけていきたいと思います。そして、違和感を見つけた時には、ペアレンタルコントロールの存在を案内をしたり保護者の関与を後押ししていきたいです。 今勤務している施設では、調べもの等で子どもたちがタブレットを使う機会もあるので、フィルタリング等の対策をしっかりと子ども達が安全な環境でインターネットを利用できるように努めたいです。